

～6人の師匠～浅利香津代～縁を思う

えにし

浅利香津代（昭和38年入）

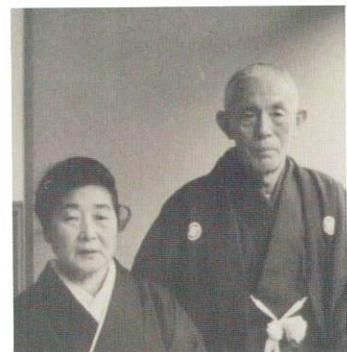
秋田県秋田市に生まれ育った。幼少時に母栄子逝去。婿の父は岩手県山田町に帰り、私は母栄子の両親（ジジとパパ）に育てられた。

幼稚園入園の一人っ子「家なか弁慶の我が儘娘」は登園拒否症！砂場遊びのバケツもスコップも取れず体育場でのお家造りの積木も取れず、自分から園友に話かける事も出来ず、パパに“オラ幼稚園さ行がね！”と朝ごねし

“行がねったら行がねえ！”と。ジジもパパも家の中の物み～んな自分の物、自分の思い通りになると思っていて、突然反対の環境に対応出来ずの私。困ったパパは、松組担任石黒先生に相談。先生は学芸会の劇組に入れたら皆と打ち解けるかもと。さあ、練習が始まると私は夢中になり熱まで出してお休み。劇組がお見舞いに来て、“和子ちゃん（私の本名）休んだがら練習でぎねがつたや。早く治せな！”と。その時私、ハラハラ涙が出て“あ～自分のごどで迷惑をかけだに皆が心配してけだんだあ！”と。それから皆と仲良くなり、会話も出来、必死で本番を終えた時は皆々で手を取り合いキャッキャッと楽しかった！その事があったので小学校入学時、パパは担任の先生に学芸会に出る子は国語の授業で読み方のうまい子が選ばれる事を聞いて、国語がある前日は“明日読むご読んでみれ！”と。そしていつも怒られるのが“教室のみんなさ聞ける様に

大っきな声で！言葉をはっきし！何が書いてあるがよく考え自分で自分の気持っこをこめでな！嬉しいどぎあ悲しぐなって、嬉しいどぎや嬉しそうに、辛いどぎあ辛そうにな！”と。その特訓のお蔭で学芸会に選ばれ、年1回の学芸会の準備の頃からは勉強なあんもしねえ子となった。親の居ねえ子

なので明るく元気な子にしたかったのだと思った。こうして生々と人と折り合いをつけ和を造っていく大切な人の道を教えてくれたジジパパが私の最初の師匠である！



中学では自然に演劇部入部、担当の先生が台本創作、ドーラン化粧をしてくれ照明機材も使用、役は難しかったけど部員とワイワイ楽しく、高校でも当然演劇部入部。ある日、劇団新制作座の「泥かぶら」公演のオルグの人が来校、演劇部に受付手伝いの依頼有り、観劇OKというので皆で勇んで出かけた。終演後椅子から立ち上がれない程感激感動の涙！2年生の時、今井正監督の映画「米」を観た。主役の農婦役の望月優

子さんがどうして入水自殺をしたのか！誰か助けてくれる人は居なかったのか！と怒り悲しみの涙でスクリーンに向かって助けようと立ち上がってしまった程。次の月の芸能雑誌「平凡」に「望月優子の人生相談覧」に住所があり、夏休みパパに頼み込み、伯母を訪ね上京、夢中で望月さんのお家を探した。幸運な事に会って頂け、私は胸に詰まっている映画の感想や疑問を話した。望月さんは“舞台や映画をもっと沢山観て自分を掘りさげる事ね”と！

望月先生の教えを光とし東京へ出る事の許可を祖父母から得、演劇学科入学“感動”探しの東京生活が始まった！高校の制服におさげ髪、いかにも地方の子の姿にか諸先輩に可愛がられ教えを受けた江古田の日々。クラブは「俳小」に入部。台本の読み方・その裏づけ・表現との関わり・役同士の関係の構築等々の勉強に驚き、身体訓練も含め京都のお寺での合宿が楽しかった。道中の広島で初めて原爆記念館拝見！強い衝撃を受け「戦争」に初めて触れ、今も引き摺る私の宿題となつた！また「協扇会」と云う舞踊劇の会に入会。私の中で分かれ



ていた舞踊と芝居が繋がつた。試演会も楽しか

ったし、演出や美術コースの人達との交流も楽しく、試演会の本番中、目からハードコンタクトが落ちた事件も忘れられず、人並みに恋愛もし、幸せ感や嫉妬心等も味わい、何しろ忙しい学生生活！そうそう中学の時にやってたバスケット部にも入部した。毎月歌舞伎・新派・新劇団の観劇、日舞三味線長唄地唄舞の稽古、望月先生宅での勉強会と役者養成塾もビッシリあり、社会と芝居と自分を繋げてくれた2番目の師匠が望月優子先生だ！

大学卒業を前に望月先生が“山本 学という役者！素敵よ！彼がいる新劇団新人会を受けてみたら！”と。申込み書提出に劇団に伺った折、窓口の方が“日大芸術演劇学科は俳優養成を受けたとならず、うちの受験資格は養成を通った方のみです”と。(当節は違うかも？50年前の事….) 私は物言う術・身振り術の授業を受けた事等説明し揉めてる所に劇団の映画放送部長岩淵さんが通りかかり“芸術学部は早稲田大学より実践的だし、私が責任取るから受けさせなヨ！”と助言してくれ見事合格。後日岩淵佐津夫さんは日芸映画学科卒の大先輩だとわかり感謝！九年間の新劇団体験へ突入！家永三郎教科書裁



新人会「若い座標」主役長山藍子

判・小林多喜二・三好十郎作品等で全国観客組織

市民劇場（演劇鑑賞会）の巡業に明け暮れ、28歳の時、前進座子ども劇場再開作品に客演参加。その役の評価で青年劇場再開作品にも出演、全国巡演の終りにはすっかり前進座ファンとなり、入団決意が30歳の時。新劇団活動の中で日本文化の和の芸能と疎遠だった自分を見つける「和への心」が動き始めていた。

入団直後、山本周五郎作品で全国巡演の後、近松門左衛門「心中天網島」小春役に抜擢、とのこ化粧、所作、台詞を手取り足取り特訓の必死の日々。幼児期からの日舞稽古と数年前からの義太夫の稽古が功をなしたのか？それから次々に大役を頂き、昭和55年水上 勉作・演出「釈迦内樞唄」藤子役にて文化庁芸術祭優秀賞受賞

ちょうど歌舞伎座にて前進座創立50周年記念公演中の発表だったの祝いの口上で劇団員が袴で勢揃い、中村梅之助先輩が



「釈迦内樞唄」

受賞発表をしてくれ感無量の35歳の私。その10カ月前逝去したパパが歌舞伎座の舞台で袴姿で名乗る私を客席で見てたら引っ繰り返っていただろうと思った！前進座退団を39歳で決意したのが近松作品「女殺油地獄」お吉役での全国巡演、春に出発、晚秋あと数回の舞台を残し、三十数回の右膝おこつきで水がたまり降板。膝治療の為と第3番目の師匠の劇団代表の中村翫右衛門師匠を劇団葬で

見送ったその喪失感でだった。どれだけ教えて頂けた事か！9年間の在団生活で“どんな立派な考え方を持っていても伝える技・芸を持つてなければな！”と私への深い眼差し細かいダメ出しに感謝！

前進座は月給制、退団後私は生活費と治療費の為、友人のスナックでバイトを決めていた所へ3ヵ所の俳優事務所からの誘い～“あ～神様が私にまだ役者をやってよいとお許し下すたあ！”と。次々とTVの仕事を頂く中、劇団育ちの私は現場でダメ出しして下さる方が居ず、自分がこれで良いのか悪いのかと不安な日々…そんな時、渡辺淳一作・津川雅彦演出・朝丘雪路主演「女優」三越劇場公演で島村抱月の嫉妬に狂う妻の役で千秋楽に津川雅彦賞を頂き、津川さんのグランパパプロに所属させて頂いた。津川さんにお目にかかる日々いつも胸に腹にズンズンこたえるお言葉・お話が聞け、TVでご一緒の時には立ち上がりえない程のダメ出しを頂き第4番の師匠となった！

こうして津川さんと出会えたのもその舞台から20年前のNHK朝のTV小説「雲のじゅうたん」で主役の姉役でレギュラー出演と秋田弁指導の仕事で新聞雑誌の取材を沢山受け、その勢いで前進座映画放送部秋田出身の鈴木 潔さん



「雲のじゅうたん」左から中条静夫・浅茅陽子・田中絹代・香津代

が商業演劇出演への道をつけてくれたお蔭。
三木のり平・浜 木綿子・十朱幸代・里見浩太朗・
北大路欣也・松平 健さん達を座長とする大劇
場への出演が続いてたお蔭。その仕事の合間、
音楽で云えばコンサートである大劇場公演のリ
バウンドなのか？ライブつまり一人芝居への興



「花いちもんめ」 関西十三夜会賞受賞（石川妙子撮影）

味が沸いてきて、伊東 清(演劇学科先輩)作「影
法師」・福田陽一郎作「付人」・宮本 研作「花い
ちもんめ」・

松山善三作 「花いちもんめ」（石川妙子撮影）
「足の裏の
神様」と無我
夢中でやっ
た。100公演以
上やったのも
あるし、20公
演、50公演の



伊東清作、小林俊一演出「影法師」

もある。
五十
代初め、
故郷秋
田在住
文学史
家井上隆

明先生から“香津代！おめえの仕事だ！”と大
正・昭和を生き抜き「秋田おばこ」を大成した田
沢湖出身の民謡歌手佐藤貞子の一生の小本を頂
き、秋田への郷愁が再燃！秋田弁はT V「雲のじ
ゅうたん」舞台「釧廻内樋唄」一人舞台「足の裏
の神様」



「貞子・秋田おばこ物語」

とやって
きたので、
スタッフ
を秋田出
身者でか
ため、初
日一週間
前舞台と
なる田沢
湖で合宿

稽古、秋田市で初日という秋田発信の「貞子一秋
田おばこ一」が誕生！県内東京巡業と 250 ステ
ージ以上公演。数か所の演劇鑑賞団体から主演
女優賞を頂いた。体の中で秋田が甦った私。

63歳の時には帰秋したい理由づけに日本舞踊
教室『清香會』を秋田市に開設、初心者なら私で
もと俄か師匠。今年で7年目、5月のお渌い会が
五周年、ではついでにと「香津代の女優生活 50
周年」のサブタイトルも付け4時間半の大公演

(私の朗読・語り芝居・長唄「女伊達」の踊りが加わった為) 朗読は会の初回から出し物としている。人の為に命を削った達人の方々を掘り起こし、顕彰しながら生きた証を朗読する、それが今、私の命の足跡、これからも続ける作業。第5番目の師匠山田五十鈴先生の物語は必ず、いつの日にかと心に決めてる夢…先生への病院通いが無くなり、日々先生への想いを募らせている私。“芝居はね、うまさではないのよ、その日自分がどう生きてるかってことよ！”の先生の声が今でも耳元に聞える！



山田五十鈴師匠と

役所企画調整課から
小学6年生対象50分「平和の朗読会」の依頼有り。平和とは?の講和の後、70年前8月14日夜秋田市土崎港の日本一の日石製油所めがけ米国の突撃機B29が空を覆い数万発の爆弾を雨のように降り落した第二次世界大戦での日本への最後の爆撃地が秋田！終戦の前夜の事、町も町民も大被害の記録話を朗読する。1年に10校伺い、早6年目！父兄参加もOK。この仕事が今の私の『命の泉！』毎年中学生に向う6年生のキラキラな眼と向い合える己れかと自分に問い合わせながら、私の命のバトン渡しとなっている。

芝居一筋五十年忙しかったあ！こうして書いている内、あの時この時あの方この方と走馬灯の様に駆け抜ける！70年並に怪我をし、病気

もしている。沢山の懸命な方々と出会い、怒られ、教えて頂き、優しさを頂けるという縁(えにし)に生かされてきた。三回忌を迎える演劇学科の先輩関谷勝巳さんが18歳の1年生の私を50年見守ってくれた第六番目の師匠！全ての出会いに感謝！有り難や！！



「前進座50周年の口上」



「徹子の部屋」2回目の出演



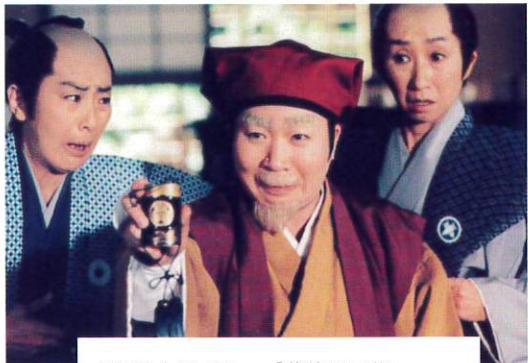


文楽人形との近松の「曾根崎心中」

(石川妙子 撮影)



「暴れん坊將軍」松平健座長と



NHK 大河ドラマ「葵徳川三代」

左から香津代・中村梅雀・鷺尾真知子

浅利香津代（プロフィール）

本名・浅利和子。昭和 19 年 8 月 11 日生まれ。秋田県秋田市出身。秋田北高等学校を経て日本大学芸術学部演劇学科卒業。女優・望月優子に師事。新劇団新人会に入団。退団後、劇団前進座に入団。中村翫右衛門に師事。退団後、あさり座所属。日本舞踊・地唄舞の師範。舞台のほか、テレビも NHK 連続テレビ小説「雲のじゅうたん」、NHK 大河ドラマ「炎立つ」「葵・徳川三代」、映画「鹿鳴館」など市川崑、五社英雄、山田洋次各監督の作品に出演。全国で 650 回公演を行った水上 勉作・演出「釈迦内柩唄」にて秋田弁で演じた藤子役が評価、文化庁芸術祭優秀賞受賞。井上ひさし作「雪やこんこん」紀伊國屋演劇賞受賞、文楽人形とのジョイント近松門左衛門作「曾根崎心中」、一人芝居「花いちもんめ」で関西十三夜会賞を受賞。秋田の民謡歌手佐藤貞子の生涯を舞台化した「貞子—秋田おばこ物語—」、秋田での実話を基にした、秋田県出身直木賞作家渡辺喜恵子原作・松山善三脚本一人芝居「足の裏の神様」を秋田弁で全国公演をした。2015 年 5 月には、會主を務める「清香會」公演で、秋田県初の女性代議士「和崎ハル物語」を秋田弁で朗読し、好評を得た。平成 22 年から秋田大学客員教授。